

12/7

食品市場 11/22

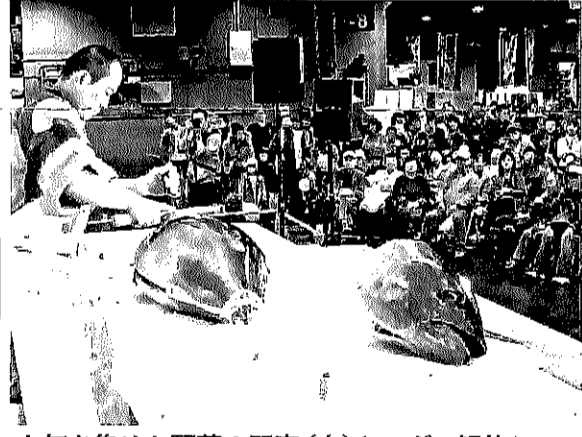
## 大阪本場 活気あふれる即売ブース 85周年「市場まつり」に3万8500人

大阪市中央卸売市場本場で20日、開設85周年記念の「市場まつり」が開かれた。水産物卸売場の特設会場には、青果物や水産物の即売ブースが並び、新鮮な生鮮食料品を求めて3万8500人が来場した。

大阪市、同市場協会でつくる開設85周年記念事業委員会の主催。市場まつりを開催するのは、5年ぶり4回目となる。青果コーナーでは、J Aグループや行政による16ブースが軒を連ね、特産品の試食・展示を繰り広げた。徳島県からはイペントトラック「新鮮なつーとくしま号」が駆けつけ、農産物の試食品を配布したり、阿波踊りを披露してお祭りムードを盛り上げた。

大阪本場青果卸売協同組合は、旬の野菜、果実の販売を行った。大根、キャベツ、白菜は、限定500個を100円で販売するタイムセールを実施。価格が高騰しているところあって、多くの来場者が整理券を求めて行列をつらねた。

水産ゾーンでは、大阪水産物卸協同組合の業種会ごとに販売ブースを設置。大阪まぐろ業会に



人気を集めた野菜の即売(上)とマグロ解体ショー

よる生本マグロが人気を集め、長蛇の列ができたほか、大阪本場新築会はゲーム感覚で買い物を楽しむ人も多かった。

数の子協会による味付けノコノコのみ取りを開催。スピードくじ、カナディアン・パンフィックステーションでは、マグロ解体ショーや模擬セリといった卸売市場ならではの催しをはじめ、津軽三味線の披露があった。

また、会場内には「熊本地震復興応援ゾーン」を設置。熊本県の産地食品の販売があった。

同市場協会の真部誠司理事長(株大水社長)は、「少し景気が上向いていることもあり、会場内が活気に包まれていた。卸売市場は生鮮食料品の流通拠点であり、その役割を市民の皆さんにPRする絶好の機会になったのでは」と話していた。

### 若手仲卸経営者に聞く

三恒三上 正剛 社長

85周年を迎えて大阪本場の将来を担う仲卸の若手経営者を代表して三恒社長の三上正剛氏に今後の展望について聞いた。

仲卸の現状は多様化が進んでいる。量販店のピッキングセンター的な役割を担うところもあれば、飲食店など業務向けに希少性のある商品の物流に特化しているところ、また、魚屋や中小スーパーに向けて、その日に仕入れたものをベストプライスでその日に売り切るという、USJのように大きくは売れないが分かれている。

個人的な意見を言わせてもらえば、今市場全体の売りの上げのほとんども体験を通る。体験を通

スーパーが占めるという状況にあって、スーパーそのものがどうなるのか、分からない。流通がどんどん変わっていつか、そういう中で「コスト消費」というか、たとえば食育であったり、文化であったり発信していきたい。単なる物の売買だけではやっていけない。食文化を伝えるという役割の中で、その手段として物流がある。そういう方向に弊社はかじを切っている。

大坂本場はここに行くか。基本的には目利きをいかに生かすかだ。それに戻さる。売場に生かすのも一つだし、体験を通じて感動させるのも目利きの方だ。仕入れをしなから常にごに販売すべきか、適材適所を考えている。市場の分荷機能も

目利きがあるからと発信できる。しかし、これまでほとんど発信してこなかった中で、一般的にはそうした市場の存在価値が認知されていない。発信力を持たなければならぬ。新しいことを発信していければ、「市場つて、すごいな」というふうに評価される。

ではどうすれば発信力が持てるか。個々の利害がぶつかりあう中で、市場全体が一致して発信していくには何を伝えらるべきか、大きな理念的なもの共有する必要があるだろう。結論としては、食文化の情報発信基地になっていかなければ、大坂本場の将来はないのではないかと考えている。

## 若い世代ほど 外食利用

厚生労働省

厚生労働省の15年国民健康・栄養調査による、若い世代ほど外食や中食の利用割合が高く、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の食生活に課題を抱えていることが分かった。

外食を週1回以上利用している人の割合は、男性で40.6%、女性で25.1%だった。年代別に見ると、若い世代ほどその割合が高く、20歳代では男性で63.1%、女性で47.3%にのぼった。持ち帰りの弁当・総菜を週1回以上利用している人の割合も、男性で41.1%、女性で39.4%となり、20歳代の男性は4.5割合、20歳代の女性は4割合と高い傾向がみられた。

1人1日あたりの品目別摂取量は、魚介類が69.0g(前年調査69.4g)と前年をやや下回った。魚介類の摂取量は減少傾向が続いており、20歳代が50g台の低さが目立った。

15年調査でも前年を上回った。20歳代で摂取量が増加したほか、60歳代が前年調査よりも5%増えた。

20歳以上の野菜摂取量は、平均で29.9gとこの10年間で大きな変化はみられなかった。厚生労働省が推進する「健康日本21(第2次)」の目標値350gを超えた人は、男性で33.7%、女性で31.4%にとどまり、特に20歳代の摂取量の少なさが目立った。

ドコサヘキサエン酸 DHA  
エイコサペンタエン酸 EPA

# 競争力強化プログラム決まる

## 全農が改革の方向決定へ

12/2

農業改革でなく、農協改革だ、といわれた政府の農林水産省。地域の活力創造本部（本部長・安倍晋三首相）が、全農・全国農業協同組合連合会の組織刷新について、農業競争力強化プログラムを正式決定、政府・与党方針として閣議決定する運びとなった。

この動きは、政府の規制改革推進会議農業ワーキンググループが、全農改革を柱とする提言を公表、内容は、割高とされる農薬や農機を農家に売る購買事業を縮小、販売部門を強化する。農家から農産物を預かって売る販売委託を、全農が買い取る方式に全面転換をというもので、いずれも「1年内以内」の実施を求めている。

これらについて、自民党内の議論で、26年6月の閣議決定で決まった農協改革プランで取り組みを進めており、また、1年以内の実現は不可能とされ、多くのものが従来通り全農自身に委ねられ

資材価格の引下げ、流通加工の構造改革、戦略的輸出体制の整備、原料原産地表示の導入など13項目を挙げてはいるが、卸売市場の抜本的見直し。卸売市場法を見直し、合理的な理由のなくなくなっている時代遅れな規制は廃止、など、市場に関する事項も盛り込まれており、今後の推移が注目されている。

ところで、市場関係者の多くは、成り行きを注視すると共に、意見を述べた立場ではなく、時期ではない、とする向きが多い、とされているが、全水卸組連・全国水産物卸組連連合会の伊藤

淳一会長は、22日開かれた九州地区連の正副会長会で、「これでは、卸売市場など流通の流れが劇的に変わることが想定され、存続の危機に直面する仲卸業者が数多く出るような状況に発展してしまふ」として、各地区の意見・要望を取りまとめ、水産と青果は違う、などととして自民党に提出するという意向を示した。

業規制と日本海の不漁で価格が上昇。田作りは、漁獲量が悪く前年より入荷が減少するものの、価格は前年並み。かまぼこ類は、入荷量・価格とも前年並み。「塩干加工品」の入荷量は、全体的に前年より減少する品目が多

い（うおいち）。

「冷凍魚」タラバ、ズワイが、供給減少や他国の堅調なマーケットの影響を受け、前年よりさらに高値。養殖サケ類、切身用冷凍魚類も総じて高値。天然エビは大型サイズがやや高め、養殖ブリがやや高め、養殖ブリックタイガーが入荷減も価格は前年並み、養殖バナメイは生産増となった。イカ類は、ヤリイカが夏漁のみの少量入荷で高値維持、モンゴイカが前年並みの入荷も価格は少し上げ予想。

昨年と比べて(入荷増↑ 入荷減↓ 変わらず= 値上がり↑ 値下がり↓ 変わらず=)

ち水

# 塩干品の価格高目立つ

## 正月商品の入荷・価格予想

うおいち

うおいち、大水は5日、

正月商品の入荷・価格予想を発表した。今シーズンの正月商品は、輸入冷凍魚の高騰と一線を画していた塩干品も価格上昇の商品が目立っている。

鮮魚も総じて高値基調の

年末商戦になる模様だ。〈鮮魚〉養殖魚は、ブリ、マダイが前年並みの入荷・価格。トナリは、生産減で前年比8割の入荷、価格は1.5割高め。九州・日本海を中心に天然ブリが潤沢。養殖ブリは相場を上げられない状況（大水）。

特殊物関係は、カキが増産で安値推移。ハマグリは、中国産が順調に入荷し、国産の入荷は少な

め。マグロ類は、生鮮キハダが不漁でやや高め、養殖本マグロが生産増加やや下がり、赤身のメバチ・キハダが入荷少な

く価格高め、脂物が前年並みの入荷と価格が見込まれる。「脂物は潤沢だが、赤身の供給は少ない」（うおいち）。

〈塩干加工品〉国産塩干サケは、漁獲が大幅に減少したものの価格は前年並み。塩カズノコは、北米ニシンが小型中心となり、入荷量・価格とも前年並み。イクラ・筋子は、秋サケ漁が低調なためヒネ物在庫も早々に底をつき、価格は3割高の見込み。

棒ダラは、ロシアの漁

業規制と日本海の不漁で価格が上昇。田作りは、漁獲量が悪く前年より入荷が減少するものの、価格は前年並み。かまぼこ類は、入荷量・価格とも前年並み。「塩干加工品」の入荷量は、全体的に前年より減少する品目が多

い（うおいち）。

# 需要創出へ業界一丸

おひこ

1/14

## 機能性食品、記念日制定

5月5日を「かずの子の日」

（ド）に公開され、世界の研究者らの関心を集める。

カズノコの持つ優れた栄養機能性が徐々に認知され、健康と長寿に推奨すべき食料とされている。カズノコ脂質による動脈硬化指数の改善はDHA（ドコサヘキサエン酸）・EPA（エイコサエン酸）・Q10が老化予防に役立つ。

「カズノコは妊婦、小児、高齢者など全世代の健康と長寿に推奨すべき食料」と。9月27日、大阪本場で開催された「カズノコ栄養機能セミナー」で講演した医学博士で日本健康・栄養システム学会理事長の定した。

み、吸収されやすいリン脂質で構成。抗肥満作用や血中脂質の改善、HDL（善玉）コレステロールの増加材料。9月27日、大阪本場で開催された「カズノコ栄養機能セミナー」で講演した医学博士で日本健康・栄養システム学会理事長の定した。

子孫繁栄や子宝に恵まれるなどの期待が寄せられてきたカズノコは、2014年、カズノコの脂質の由来は「こどもの日」の由来と一致。今年の大規模のヒト介入試験を行い、前述の効果を実証。消費者庁の機能性表示制度に届け出を済まし、受理を待つ。

4月30日、札幌市場で開催されたイベントには21組の親子が参加。世界的シェフなりの「こども」の中で「こどもの日」の由来は「こどもの日」の由来と一致。今年の大規模のヒト介入試験を行い、前述の効果を実証。消費者庁の機能性表示制度に届け出を済まし、受理を待つ。

「かずの子の日」のPRイベントとして開催された三國シェフのセミナー



「かずの子の日」のPRイベントとして開催された三國シェフのセミナー

「かずの子の日」のPRイベントとして開催された三國シェフのセミナー。4月30日、札幌市場で開催されたイベントには21組の親子が参加。世界的シェフなりの「こども」の中で「こどもの日」の由来は「こどもの日」の由来と一致。今年の大規模のヒト介入試験を行い、前述の効果を実証。消費者庁の機能性表示制度に届け出を済まし、受理を待つ。